

# 知的障がい者支援「福祉型大学」視察 -カレッジ早稲田

2015年11月18日 社会福祉法人鞍手ゆたか福祉会

## 授業の視察



丁寧に宛名書きを実習する生徒さん



ひっ算の計算問題に取り組む生徒さん



カレッジ早稲田の皆さんと参議院議員山田太郎

## 教育の必要性

(知的障がい者の離職からわかったこと)

- ①仕事への能力は十分であるが、休憩時間の過ごし方に問題があった。
- ②仕事の指導されることへの忍耐力がまだ備わってなかった。
- ③仕事の技術を高めるためのコミュニケーションが十分でなかった。

(海外での取組)

海外では、大学の中で知的障がい者も同じ大学生。特別な存在ではない。  
例)米マサチューセッツ工科大学、豪シドニー大学

## 効果

(知的障がい者大学の設置の効果)

- ・18歳までの特別支援学校では、足りない教育時間の確保ができる。
- ・一般の大学生との交流で一般社会で生きることの意味、常識を養う。
- ・職業体験等を通して、コミュニケーション技術の向上、忍耐力の強化ができる。
- ・資格の取得によるスキルアップ（資格取得率は53%）
- ・職業のマッチングにより離職率の低下、再就職の成功につながる。
- ・知的障がい者の進路の選択肢の増加

## 今後の活動へ

### ①知的障がい者「福祉型大学」の充実

- ・公立大学での知的障がい者受け入れ態勢の整備要請
- ・私立大学での知的障がい者受け入れ態勢の拡大推進

### ②知的障がい者「高等教育」の実現への調査

- ・知的障がい者の高等教育についての特区の検討
- ・知的障がい者に係る高等教育進学体制の整備検討

### ③知的障がい者「高等教育」必要性の啓蒙活動支援